乙貞

第21号　（通巻第4巻第1号）

1985年5月1日発行

守山市立埋蔵文化財センター

☎ 0775 85-4397

〒524-02

守山市服部町2250番地

：：：：：昭和60年度当初に：：：：：

石激る垂水の上のさわらびの

もえ出づる春になりにけるかも　　志貴皇子

「万葉集　巻8・1418」

これは春の喜びをうたった歌です。古代の人々は季節風物そして恋愛などに対して感情をとても素直に表現していたようです。彼らの生活にはもちろん自動販売機やテレビはありません。しかし、自然の中で生きる彼らには今とは違ったゆとりがあったように思います。私達は多くの人達の努力のおかげで、今日のような便利で豊かな生活を送ることができます。でも、私達が人間らしい生活を送るためには、自然環境・芸術・人と人とのふれあいなどの人間の内側を豊かにするものが必要であると思います。豊かな田園都市・守山はこうした諸々の条件を兼ねそなえたすばらしい町であると思います。当埋蔵文化財センターはこの守山の町づくり、中でも「文化の香りたかいまちづくり」の一翼をになうことができればと思います。

さて、今年度も当センターの職員に若干の異動がありましたのでお知らせいたします。

センター職員表

職　名	氏　名	担　　当
所　長	高橋　良孝	埋文センターの総括管理・関係機関との連絡調整
主　事	山崎　秀二	埋蔵文化財の調査計画・調査・整理作業・友の会
主　事	岩崎　茂	埋蔵文化財の調査・整理作業・特別展
主　事	畑本　政美	埋蔵文化財の調査・整理作業・特別展
主　事	宮下　睦夫	埋蔵文化財の調査・整理作業
調査員	岩崎　陽子	埋蔵文化財の整理作業・見学説明

着任にあたって

創設満5周年の記念すべき意義ある年を迎えた、守山市立埋蔵文化財センターの所長として大任を拝命、身のすくむ思いで着任すでに1ケ月を経過します。

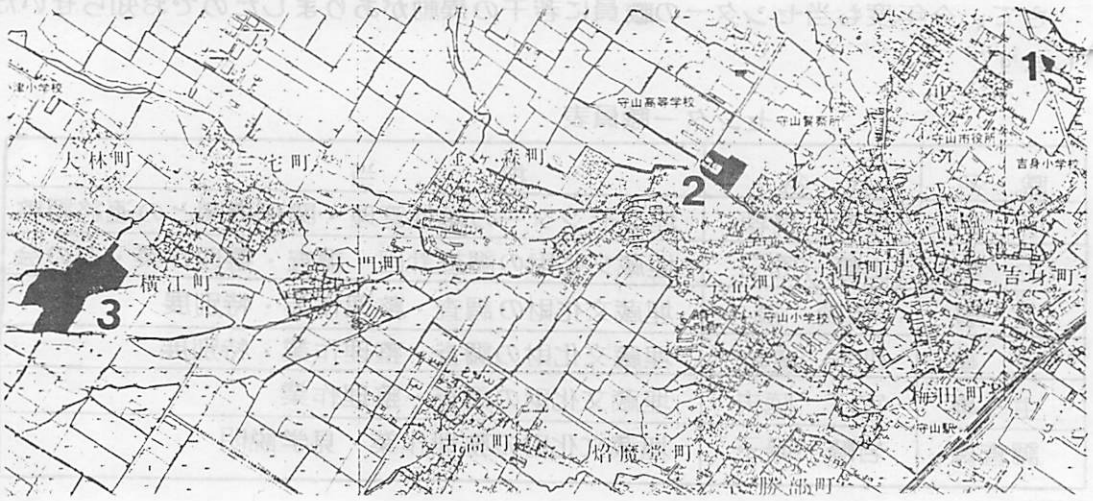
さわやかな五月晴れ、市内各地で祭りの太鼓やのぼりのはためきも聞こえる時季となってきました。皆さんにはすでに埋蔵文化財センターが、どこにありなにをしているところかなど、ご存知のことと思います。でも先日あるところで話をしておりました時、埋文センターの話になり「まだ一度もいったこともないし、大勢の出入りがあるが何をしているのか」と尋ねられたことがあります。私たちは自分と直接関係のない場合、わりと無関心なところがあります。埋文センターなどは特にそうなのかもしれません。しかしそうではなく、一度くらいは見学してやろうという意欲をもって欲しいものです。

埋蔵文化財センターは昭和24年法隆寺金堂が火災により焼失した翌年、国会で全面改正された文化財保護法にもとづき、市内数十ケ所に及ぶ遺跡やそこから出土した膨大な遺物を整理し復元するなど守山の歴史を知る重要な役割をもっています。つまり私たち社会のルーツを探るところといってもよいでしょう。

今年度はそうした概念にたって、新たに文化財教室を開講するのをはじめ、年間4回の特別展示会も開催し、ひろく一般の方々に親しんでいただくセンターとして開放したいと思います。なお「埋文友の会」も昨年度発足しておりますが、本年度は一層の会員増をはかり充実した運営を行ないたいと思います。今後ともよろしくご指導とご鞭撻を載きたいとお願いし、着任の挨拶といたします。

守山市立埋蔵文化財センター所長　高橋良孝

◎※　発掘調査だより　◎※◎※◎※



調査地位置図

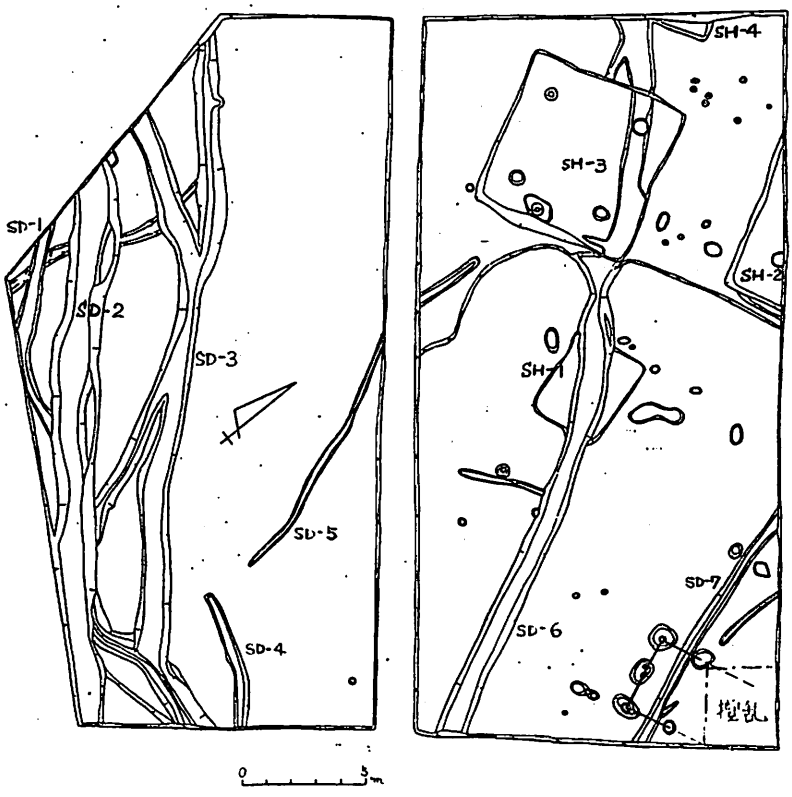
1 二の畦遺跡

二の畦遺跡は、吉身町と野洲町の一部周辺を中心に集落址として周知されている遺跡です。野洲町側では野洲川左岸遺跡と呼ばれていますが同一の遺跡群と考えられています。

今回行なった発掘調査は、吉見町字宮ノ北において店舗建設に先立つものです。1400㎡申請面積のうち、建築部分を中心に約860㎡のトレンチを設定しました。見つかった遺構には数条の溝、堀立柱建物1棟、竪穴住居等です。

溝は第1トレンチに多く、東西方向に走り　重複部分もかなり見られます。時代についてみますと、各溝からの遺物が少なく断定できないのですが、溝1については古墳時代の須恵器が出土しています。堀立柱建物は第2トレンチの東隅において2間×1間以上検出しています。堀方からは古墳時代の土師器が数片出土しました。竪穴住居も第2トレンチで4棟見つかりました。うち2棟は（SH－2、SH－4）はトレンチ外へ続き　全容を知り得ませんが、残り2棟は6.5m×7m（SH－3）3m×4m（SH－1）の規模です。SH－3では古墳時代前期の　、高杯が出土し、他の竪穴住居も同時期のものと考えています。

これまで二の畦遺跡では調査例が少なく、今回の調査で古墳時代前期の集落が存在することが裏づけられたと思っています。



2 金森東遺跡発掘調査終了！

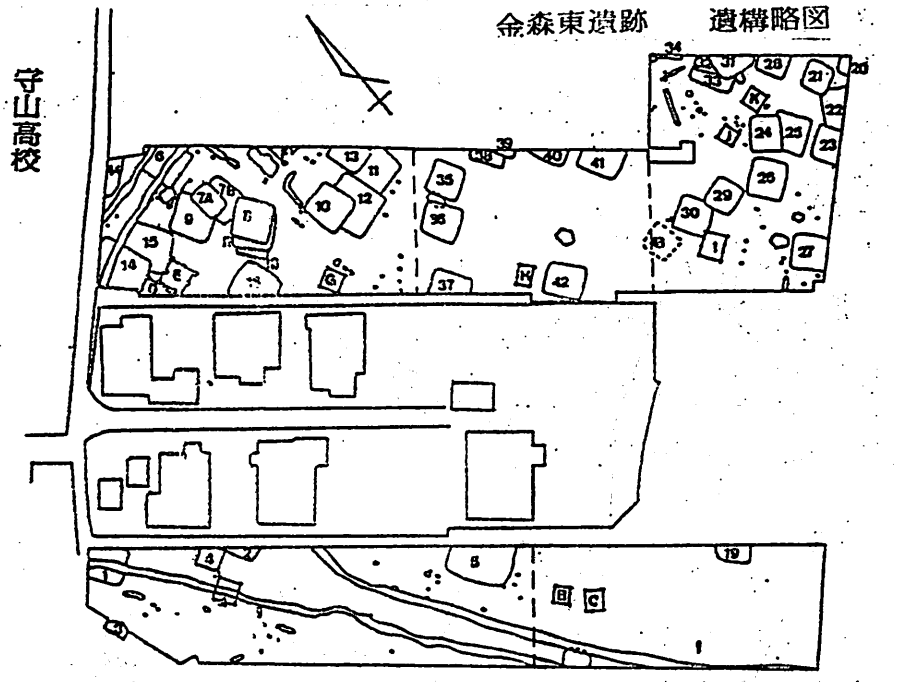
去る昭和５９年１０月より実施しておりました金森東遺跡の発掘調査は３月２７日をもちまして終了することができました。２月下旬から３月にかけての多雨、菜種梅雨と雨に祟られながらも、およそ半年の調査を完了することができましたのは、調査地周辺在住の方々や関係者の御理解によるものであり、「乙貞」の紙面を借りましてお礼申し上げます。

さて今回の調査の成果をまとめてみますと、守山高校附近に弥生時代後期から～古墳時代後期にかけての集落跡の存在を確認したということになります。集落遺構の調査は過去多く行なっており、特殊なものではありません。しかし弥生時代後期から古墳時代後期の間、継起的に営なまれた集落となると、市内ではそう多くの調査例を挙げることができません。おそらく数棟の竪穴式住居で集落を形成したと考えられますが、弥生時代後期に「ムラ」が誕生し、数世紀の永きにわたり当地に定着したわけです。その「家」の跡から見つかった当時の日常品も豊富であり、現在整理作業は行なっておりませんが、完了時は当時の生活様式と移り変りを知る有効な資料になるものと思います。集落全域を調査したわけではありませんが、「ムラ」、そして各「家」＝竪穴式住居、倉の配置、又、一口に竪穴住居と呼んでいる地面を掘り下げ、覆い屋をつけたすまいの時期的な変遷を知る上で大きな手がかりを得ることも期待しています。

調査成果の報告になっていないかもしれませんが上記のとおりです。今回の出土遺構、検出遺物は、毎日のように新聞・テレビなどで報じられるような特殊な貴重なものと位置づけるものはありません。古代史を塗りかえるような発見・調査があったとしても、それは当時の一般階層の人々、その生活に立脚するものであり、基盤となる人々の生活様式の理解が重要とされる遺構・遺物の理解につながるものと考えます。取りたてて話題にならない、何の変哲もない集落跡の調査は、古代史解明にとって最も有効であり、今回の発掘調査もそういう観点から大な価値を見い出すことができます。

金森東遺跡調査概略

調査期間	昭和５９年１０月２２日～昭和６０年３月２７日
調査作業人員	延べ１１７３人
調査面積	５１００㎡



3 横江遺跡

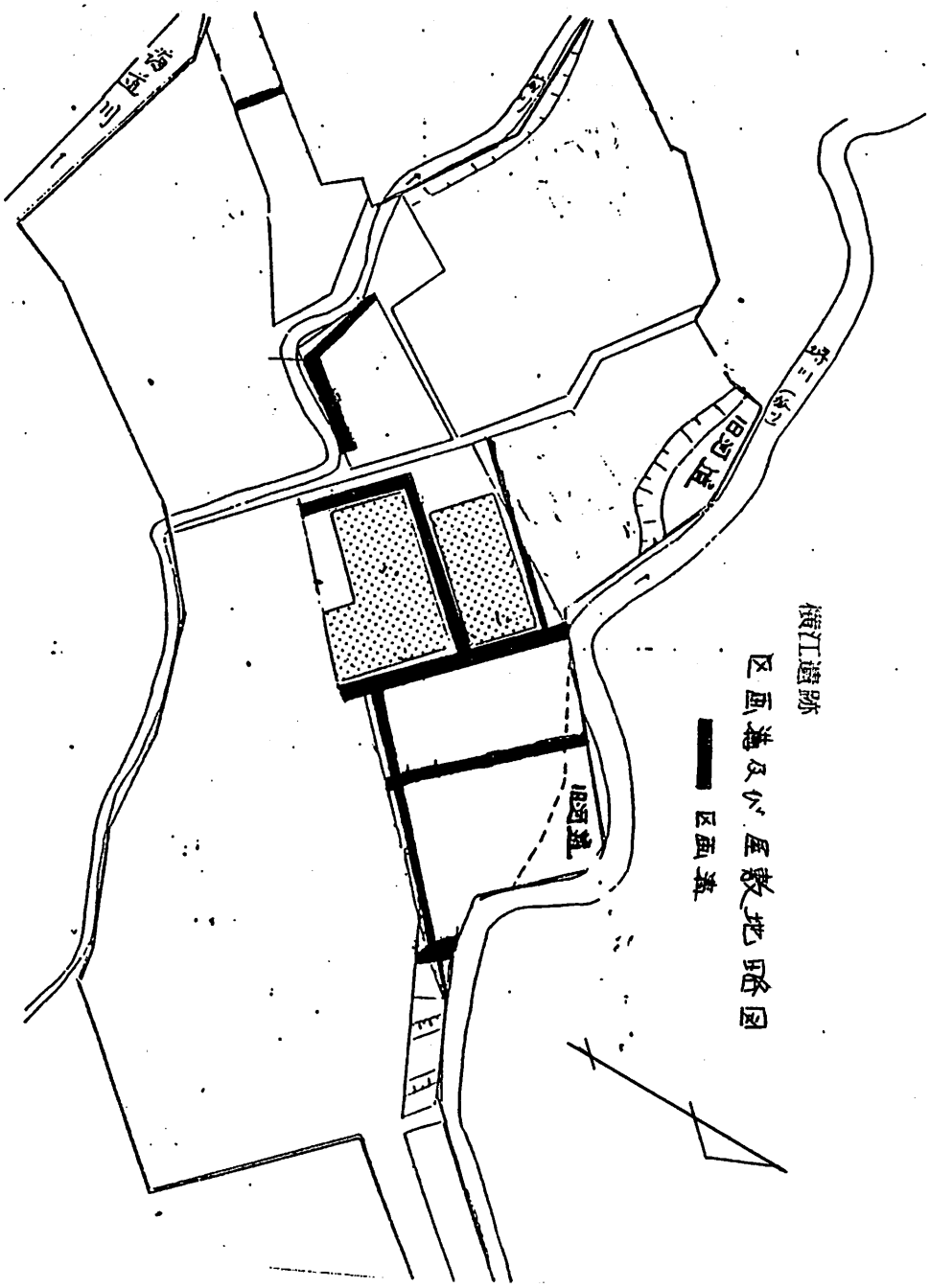
横江遺跡の調査も2年目が過ぎ、当時の集落の様子もかなりわかってきました。今回の「乙貞」では前号に紹介した中世の館跡について報告したいと思います。

この館跡は今年の冬に調査したところで見つかったもので、調査地のほぼ中央にあります。ここは従来畑となっていたところで、周囲よりも一段高くなっていました。実際調査を行なった結果、この高まりは当初から存在しており、さらにそのまわりを2～3m の溝がめぐることがわかりました。この高まりはほぼ長方形をしており、並列して2基検出しています。高まり上には、それぞれ数棟の掘立柱式建物や溝・井戸が見つかっています。又、東側の高まりの東南には橋脚と考えられる杭が見つかり、ここに橋をかけて出入りしていたことがわかります。遺物は建物跡や溝・井戸などから多量の土器（黒色土器椀・土師皿・陶磁器等）や下駄・硯・土錘（魚網のおもり）などが見つかっています。又その他には、当時の人々が食べたタニシなどの貝殻が見つかっており、当時の人々の食生活の一端を知ることができます。

この高まりは溝で囲まれた館跡と考えられ、周囲よりも少し高いところに家を建てていることなどから、集落内部でもわりと中心的立場にあった人間の居住地であるのかもしれません。

今回検出した館跡を含む集落跡は、旧河道や自然流路を埋めて宅地としたり、溝で区画割りをするなど、当初からかなり計画的意図をもった集落であるといえる

でしょう。このような遺跡は、他にはあまり類例がなく　たいへん貴重な遺跡と思われます。横江遺跡はあと2年間調査を継続する予定ですが、興味のある方は気軽に見学におこし下さい。



年中行事シリーズ　～春祭り編～

下新川神社　すし切り祭　（守山市幸津川町）

ここの祭神は崇神天皇の皇子・豊城入彦命と小循姫で、祭神が東国征伐に出かけるためにびわ湖を渡ろうとした時、強風で流され幸津川の地にたどりついたといいます。この時村人らが「ふなすし」を献上し、それ以来この神社は「ふなすし」の元祖となったのだそうです。

「すし切り祭」は長刀踊の祭の神事で、毎年5月5日にはすし切り役に選ばれた若者2人が、まな板にのせた鮒を、右手に庖丁左手に鉄製の箸をもって切るという神事が古式ゆかしく行なわれます。

（守山の文化財より）

小津神社　長刀踊　（守山市杉江町）

長刀祭で知られる小津神社例祭は、昔水害で流された御神体を迎えるという故事により、近郷からみこしがくりこまれるもので、水利権の表現を含む農耕儀式の姿をとどめる民俗資料であるといいます。

化粧まわしの力士を先頭に、長刀・花笠・しっころ・横笛・鐘・たぼぼ・太鼓・音頭取りと続く祭列は「チャンチャン　チキチ　チャン　チキチ」の鐘の音のにぎやかさと相まって、けんらんたる絵巻物とでもいうべきでしょう。又「ハア　ヨンネエコ　ウ　ヨンネエコ」の音頭をうけて、「エエ　サンヤアレサンヤアレ」とはやす「はやし」に続いて、京都や鎌倉をうたいこんだ歌詞にあわせて太鼓を打ちながら踊る太鼓踊りや、拍子や掛け声に合わせて曲踊りで目を楽しませてくれる長刀踊は、小津祭の圧巻ともいうべきで、優雅美と勇壮美が混然一体となった祭礼であるといえます。

（守山の文化財より）

この下新川神社と小津神社の長刀踊は、昭和59年12月14日の答申で、土山・甲賀・蒲生・竜王各町の祭とともに「近江のケンケト踊り ―長刀振り」として一括して無形民俗文化財の選定をうけました。この祭は滋賀県独特のもので、いずれも中世までさかのぼることができる伝統ある民俗文化財であるといえます。

◎　下新川神社　長刀踊　守山市幸津川町　　宵宮　5月4日
　　本祭　5月5日

◎　小津神社　長刀踊　守山市杉江町　　本祭　5月5日

@@@@@@　春期特別展のお知らせ@@@@@@@@

去る3月18日～24日の間、「昭和60年度調査速報展」と題して特別展を開催しましたところ、多数の見学者がありました。さて、今年度も4回の特別展を計画いたしております。第一回特別展は4月28日～5月6日までの期間で開催いたします。内容は下記の通りです。

記

◎　開催テーマ　　「弥生・古墳時代の守山」
◎　開催期間　　昭和60年4月28日～5月6日
※期間中は無休です。
◎　開催場所　　守山市立埋蔵文化財センター
◎　講演会　　昭和60年5月3日（金）　午後2：00～
講師　丸山竜平氏
演題　「古代近江の朝鮮」

弥生時代・古墳時代の守山に住んだ人々は、どういう生活を送っていたのでしょうか。地下に眠る埋蔵文化財はそれを語ってくれます。どうぞ当センターで彼らと話をしてください。

～編集後記～

夏山の木末（こぬれ）の繁（しじ）にほととぎす
鳴き響（とよ）むなる声のはるけさ　　大伴家持
「万葉集　巻8・1494」

暖かな陽光を浴びて、木々の緑も日に日に青さを増してきました。湖国近江も春爛漫といった様子です。この時期湖国各地ではたくさんのお祭りが行なわれます。この守山でも、下新川神社のすし切り祭や小津神社の長刀踊など、たいへん伝統のある行事がとり行なわれます。

皆さん、さわやかな風とやさしい陽の光を浴びながら〝むかし〟を旅してみませんか。伝統と文化にふれながら〝むかし〟を歩いてみませんか。

Mr・M